特別
へ4
7500
1

文集目録

一

文保三年卯百首

忠房ニ　父ヽ平ニ　通平ニ

内侍ニ　實重ニ　空性

特
へ4
7500
1

55-5491

宮城県図書館蔵

詠百首和歌

春

忠房

春来ぬと　[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水ぐるまのかげ
きさいのみやの
はるのあさぼらけ
やうらのあまびとの
夏ぎいるころ月はうつりて人をわすれぬ

恋

おもひかねぬ人のみをまつ
ちぎりをかさぬ袖の川
日もとのこゝろをたのみ
白玉のうけもとゝ人をこそ
いとゝ恨をなるとなれ
ひとりぬる夜のあけぬ
あるとこそ
ちぎりをかさぬ袖の川
あつさ
かなしきいとなんなる
恋しなん我ゆゑ人やなん
あつさ川のほとりに
偽なき宮ゐをこそ
交はれとなりわるもいと
いとゝ人あるへの命
こゝ交さこそ
ちぎりをかさぬ袖の川

[illegible]

人々あまのゝ跡ゝ秋のあさのゝ風
うしなひや琴の弦ゝ月ふかき
恋ゝなりいとゝ絶なるゝ
人々も神やつれなく
あまのゝ[illegible]

雜

[illegible]
まゝ山夕越[illegible]玉鴨乃里[illegible]桐[illegible]
[illegible]人々なれや[illegible]

山里ゝ[illegible]人々あはれとも[illegible]
やすらゝ[illegible]桐未[illegible]常とみえ[illegible]
[illegible]
[illegible]竹[illegible]園[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

夏日同詠百首應製和哥

従一位藤原朝臣冬平 上

春

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の一入[illegible]
玉河乃[illegible]波春[illegible]
[illegible]

夏

雪とみて庭の橘の花[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]月の[illegible]
[illegible]月西[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋

[illegible]
秋のゆふ風
[illegible]
天河なしの[illegible]
[illegible]
[illegible]

冬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春日同詠百首應製　和哥

春二十首

後一位従藤原朝臣道平　上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋二十首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜

[illegible]

村雨の雲や消えぬらん風もぬるるる下道

[illegible]

[illegible]

代の[illegible]

[illegible]

久方の玉葉入りの玉根なる
天地のをしけわりる神代より
[illegible]

夏日詠百首應

関白従一位行内大臣兼太政大臣藤原朝臣經上

製和河

去廿首

所は難波の新宮とぞ申すなる代の世の初まれ
立ぬ物なれども心は其の人なるべし
一入も深き梅の花の香ぞ
を近の梅の花の香風に
香はなつかしき人をも
うつり人とも思ひ出て
大方の去八十年も散ぬ
去風にけつれて梅の花
神をそこいはまん去自の
ふるふるひとある代の世を

そらにもあるひと去の光て月と雲はるる世のなき
白雪はゆきかつ消へてやそ風と海はあれ去より金
るはるる花のうりそれあるうりふかきの
おりの去の去と聞きまつるうぐひす去の花
去れへこの風とまれる代なれば世をへぬ去
むとのそそせる野への不死年小雪ふる月を待つ
此風もあとなりへやもきて梅をまれしわりん
去野の梅ゆきとも風ふうきてこれきる花のあさる
さるはるもれしこれの風のこしあるる花の白雪
里人のいとふ山吹のそ風て少へ百井の川

[illegible]

夏十首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我と恨て秋風のと秋のとよりてなりぬらん
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋日同詠百首歌　製和奇

春　二十首

太政大臣従一位藤原朝臣貫重上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月新宮代を宮くまに流みつさうつまう天の雲人山
雲いとれ山の色にくまさりあたれひとり月うてれる
吟遠る所面代の杜風と村雲はいとるとその月うけ
村雲風吹くまの戸をとりあるとくるまなき方と服新
なれくみる月いうとれ用よ神の光の新うとく
新ほる月のよ世と恵新を新なる路の杜うを
ものをゆく路なるものいまなる衣すとまとなる
恵新をうつふ前とけさのまいまと白新をとうれし
和歌をうつふ波の世つとう河おれの海や月を
歌をいとうとうとと路人山人杜のふとう

冬十カ首

神世月うとうとうふ所面に風を吹といとつ杜と
山風のいとまとせとなとなく木のとくとくる神世月れ
以来とつつ年月の杜とうとうとみなとうとうるの美く
美柴とう恵とうふ新と世とへとうあなとかれゆ宮の人とう
丁とすとくいとつの新を言ぬとくとくとくとの月
池れのとほまとう新とひとつとそ用ひみをとする月れ
とうとうとうとうとうとうれみを杜人なの野風新のとうぬ
吹とこの海のはとこの杜風と汀のとうと杜のとうとく
吹とほる風とひとつとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう新

海晏る雪の光の白妙にみえし山の端
ゆ久し波寄せつゝ幾たびか雪の花咲
かせつゝ白妙の袖ふるまでの世の人
消ぬせしかはまつれて白雪はさきまさる
見るまゝに高ふきなるとあらしの波かの山雪ハ雪
雪はなれりとふへさはけしく雪人なりと海あらん

題二十首

高なみ後のふなかはあ〻ふ舟の白帆の色の
こゝえ〻てこゝろ〻ゆる〻こゝろ〻
あふまてこゝろ〻ゆ〻せ舟の行とゝ人の行ふん

かしなりやつれなく人こゝ立つゝ二のゆふ見こゝきなん
あるとそ〻ゆ〻の舟なり・ひ
うき方こゝ偽こゝれつゝう駒こゝ立こゝ
はるはれをの高のこゝ高すひ人かゝ池の白波
ひりあ〻うこゝ高のひこゝ高こゝ音の爰こゝ世
まつ又高ゝ高こゝ高こゝ高こゝ
かゝ見こゝれこゝ駒こゝ高こゝ
高のこゝ高こゝ消こゝ高こゝ
こゝこゝのこゝ高こゝ高こゝ
恨こゝ高こゝ高こゝ高こゝ

わすれぬ夏をこゝろとやうつせみの
こゑきゝそめし命なりけり人しれず行かれ
ぬるものとなりけるなかぬ宮方にうゝ
さきのの野わたりにすゝむしのこゑ成へ
ゝとなくなりぬ人をわすれぬ用をきゝわけすれせてき
なくつくつくし世をうしなひて踏る中河はし
たゝとこひそめてある月日をふるはのなをなれ

新十首

長きうゝをいとやなる花の袖えん
ゆくれのわすれぬ世にいつ流のせゝをもち河

清見潟波にほふ風のうゝ波のなる種の袖松
へゝてきゝゝらやゝ
月夏の雲をやゝ月しんもしさかれる山の行の風
こゝ方ゝゆゝ月ゝゝ
なるゝ山へゝゝむゝきゝん波ゝのみをゝきゝ
はゝふ春ゝつゝゝれとゝひゝてゝゝみなゝゝのゝを
ゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

詠百首和歌

春

空性

[illegible]春[illegible]日[illegible]天香久山
[illegible]
[illegible]雪[illegible]
[illegible]
[illegible]谷[illegible]
[illegible]梅[illegible]
[illegible]風[illegible]人[illegible]

[illegible]柳[illegible]
[illegible]花[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]水
[illegible]桜[illegible]
[illegible]雲[illegible]
[illegible]一枝[illegible]
[illegible]花[illegible]
[illegible]袖
[illegible]

第八色雲ともうへしまちみやこ唐の行ふ所かちなん
さものなれ色の色こいつ川ていてらる井よ山次
ぬりてさそこ月日ぬうふ木よう花のくるぬをを

夏

花ぬ春うすみ清ぬ空ぬ春ふまき系の中ぬ春ようき
時こうるこ切ぬつ花なこむこふここるこ
ようこうこ山ぬるこのれやう月ちるをこ行こん
星人ぬけやこうこん部こ山ぬ花こ声のうちけこ
こをれぬ春こ声こつ花こきぬ行こたぬ花の社こ
ぬりこうこうこうこうこうこうこうこうこ

おやあ月のうこぬけうひあこ少ぬこのこう
りこふれこりこの花へ月ぬ水のこたれる雨西の花
月ぬ行こまこの二ぬ雨こ泳こて涼こ少ぬ雨
夕ここるこある雨ぬ村雲こ高こほうこれのこつか
ぬこの月ぬ宮こうこ高こみ中こ宮ぬ花こり火のうけ
雨こ西こ春る夜雨ぬこかこ中ぬ村の花をこまこ
村の下ぬこれの三歌雨すみこくこうこうふ山のこ行涼き
涼行こ日ひこうぬ消こうこ雪ぬ一村雨こ高こ雨こ高こ
ふこまこやこ雨ここ涼こ河夕波こうこまこ村中こん

秋

いつをうつしの神と成て花てし秋のうつる
吹ける秋の風うつる涼しかれかのうつれ若葉の神す
秋ゝ月つきう風ゝもむすふ人を合をうつ秋の夕雨
をうつしなりけりを行ゝくゝなるなれしき秋の色
秋の風をなくまるる女郎花うつゝ神か
ふるす志のやゝそる志の色を花の神と雨あまり
うちはの又立ちれきたらく秋旅の衣をうれ
ゝ色ハ雨のゝそるけしき雨うつ多雪の山
月の新蓮より大ふとしく秋のつゝ行るあうつさ
多くれい秋の立ちの神ゝ雨ゝ

秋色ゝ秋ゝ雨の波ゝ立ちうつ神吹ゝすまく吹ゝ
入ゝる秋ゝの夕日ゝ宮ゝ雨ゝ雪ゝ多雪ゝ山
あゝ雨ゝの多ゝ白雨ゝ雨ゝ風ゝあゝ月ゝ風ゝ
若ゝ神ゝ月ゝ雨ゝ雨ゝ月ゝ雨ゝ雨ゝ
秋ゝ雨ゝ月ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
うゝ雨ゝ雨ゝ月ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
風ゝ雨ゝ月ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

下深のつゆをうけつ杉山のあれぬまさ恵もてるが
りるとて波のおというち絶ぬ[illegible]つむ初うし
みるあなたこいつれいと度ちもすかれる者分れ
ぶ[illegible]あまり波なく人はねるこふくのまもちやそ
ぶひあまるとうちもひ見ぬ日世ことをとられたをら
なるつてくわいふさまあてさとつる和歌うな
まれなる人とうやちうんをのあ書ぶ[illegible]こう二
指る袋の如ほのいなをろいそふとう[illegible]
ゆるこふとみえとうちぬれとまれすきとうり
けこ人日くうるをさといて行るむへき

こうはさだうこ[illegible]
人つはるこけ[illegible]
なりこひあれいはとふ
波とみこうなるまう
あるるこ神のうれの波
こひあるとうつれさ
人はこはこふこやう

雜

みうこあはるそうを晴やこの村雲の
杉の吹ぬ一の月はきえ多山のうち入おのれ

旅衣うきなる袖の雨所面うのふぼうにかくるかとかくれ

すきぬれハ

ふるてにかゝるあさ露ハ

ものとくゝ

まもるとみなりとて氷なるれのまぬるつゆハ

かゝ行ぬなりけりとゝ

十念寺澤乃